

(別添)

独立行政法人地域医療機能推進機構
秋田病院
公的医療機関等2025プラン

平成30年 2月 策定

【基本情報】

病院名	独立行政法人 地域医療機能推進機構 秋田病院			開設主体	独立行政法人 地域医療機能推進機構	
所在地	秋田県能代市緑町5番22号					
許可 病床数	病床種別	一般	精神	結核・感染	療養	計
		167				167
	病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
			167			167
稼働 病床数	病床種別	一般	精神	結核・感染	療養	計
		167				
	病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
			159	8		167
診療科目 H29.4現在	(計 科) 内科、小児科、外科、産婦人科、泌尿器科、整形外科、眼科、 耳鼻咽喉科、漢方内科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科 12科					
附属施設	介護老人保健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター 健康管理センター 地域包括支援センター（能代市本庁地域 H30年4月開設予定）					
常勤職員数 H29.4現在	職種			職員数（人）		
	医師			18		
	看護職員			149		
	医療技術職員			43		
	福祉・介護職員			31		
	教員					
	技能職員			11		
	事務職員			25		
	合計			277		

【1. 現状と課題】

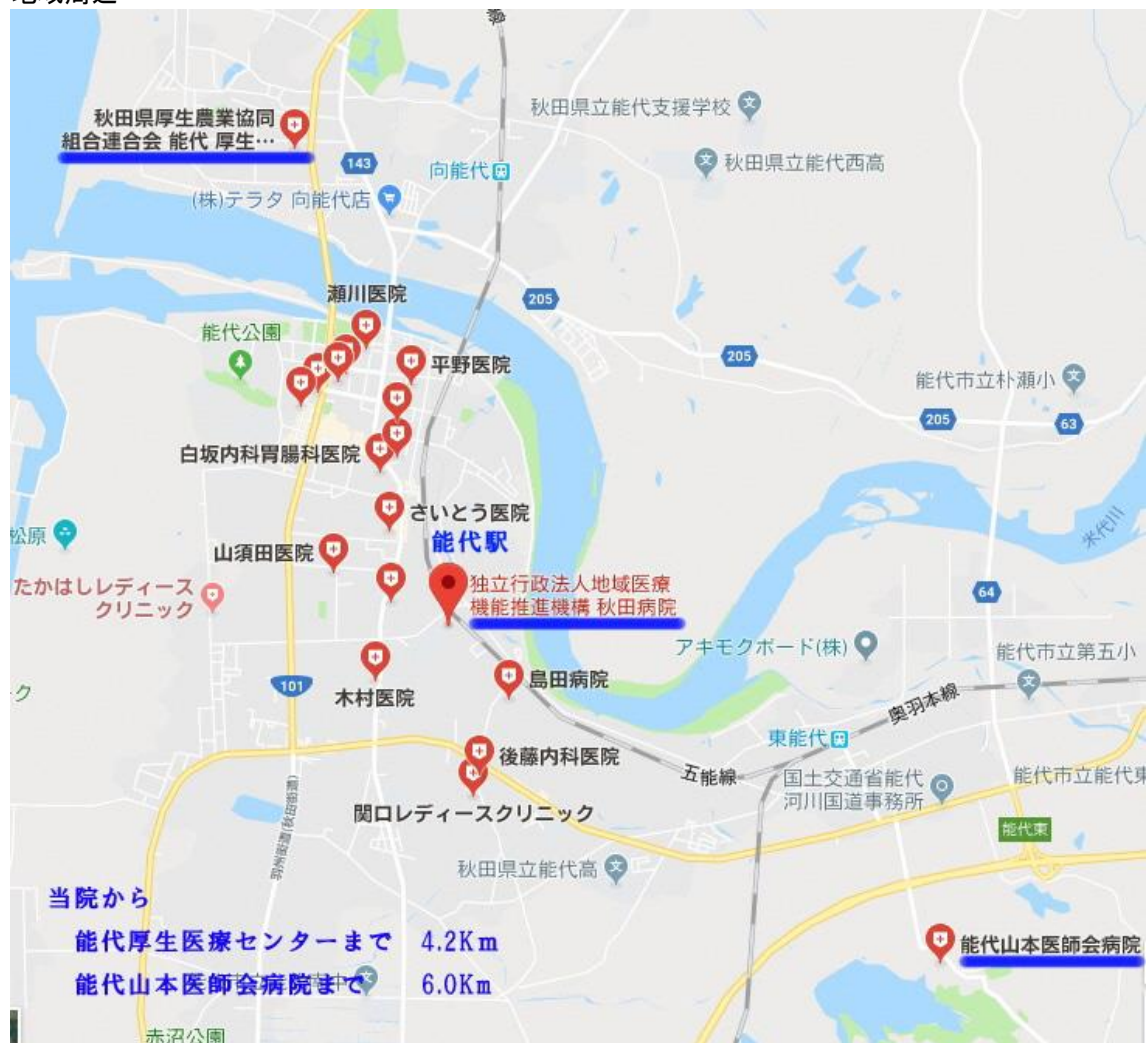
① 構想区域の現状

- ・地域の平成27年の人口は83,135人（65歳以上の割合は38.2%）
- ・病床数の推移については下図に示すとおり、高度急性期と回復期は不足となっているが、急性期と慢性期は過剰となっている。

	病床数の必要量 (H37年)	病床機能報告 (H28.7.1)	差引
高度急性期	72	0	▲ 72 不足
急性期	300	706	406
回復期	246	105	▲ 141 不足
慢性期	155	300	145

※県の文書を引用

地域周辺



② 構想区域の課題

- ・急性期医療を主として提供する3病院は、類似した機能を有するため、その機能分化が望まれます。
- ・急性心筋梗塞について、地域内には心臓血管外科医がおらず、経皮的冠動脈形成術や心臓リハビリテーションを実施する施設がないため、地域内でそれらを実施する体制の整備が望まれます。
- ・一部の町の一般診療所においては、常勤医師が不在で診療日数や診療時間の拡充が望まれる。

※県医務薬事課「地域医療構想調整会議」の資料より抜粋

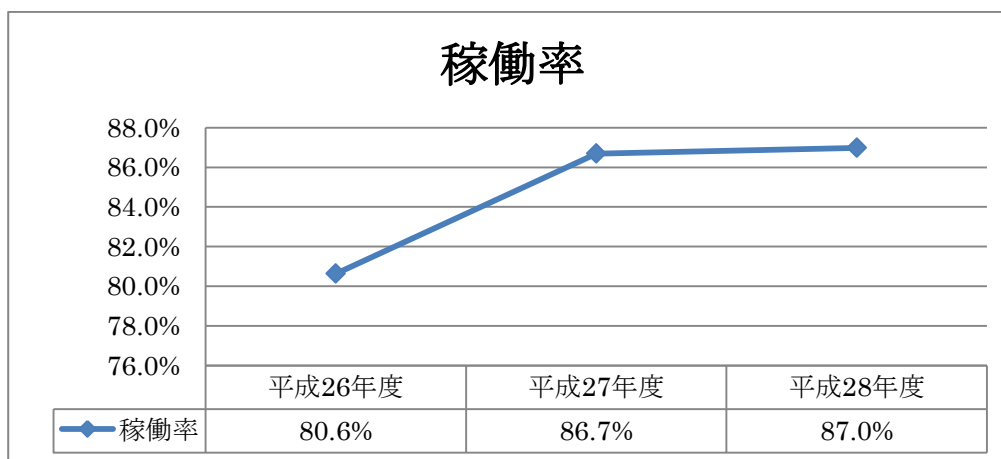
③ 自施設の現状

H28度

- ・一般入院基本料10対1（167床　うち8床は地域包括ケア病床）
- ・一日平均患者数　入院138.2人（稼働率87.0%）　外来419.8人
健康管理センター　21,104人
- ・平均在院日数　21日
- ・手術件数　884件（うち全身麻酔437件）
- ・救急車受入件数　H28度　481件
（能代厚生医療センター　2063件、能代山本医師会病院　373件）

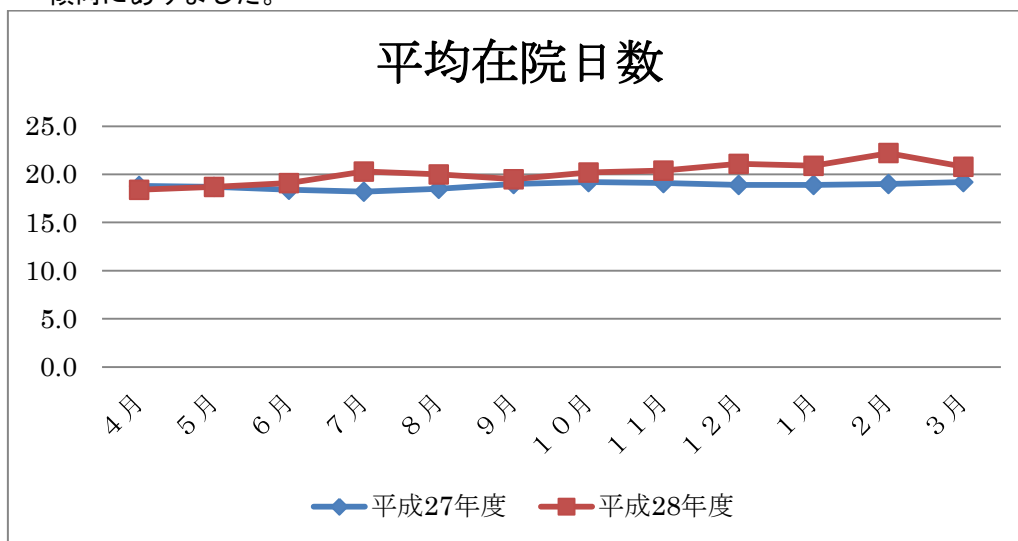
病床稼働率

病床稼働率は、平成27年度以降85%を超えております。

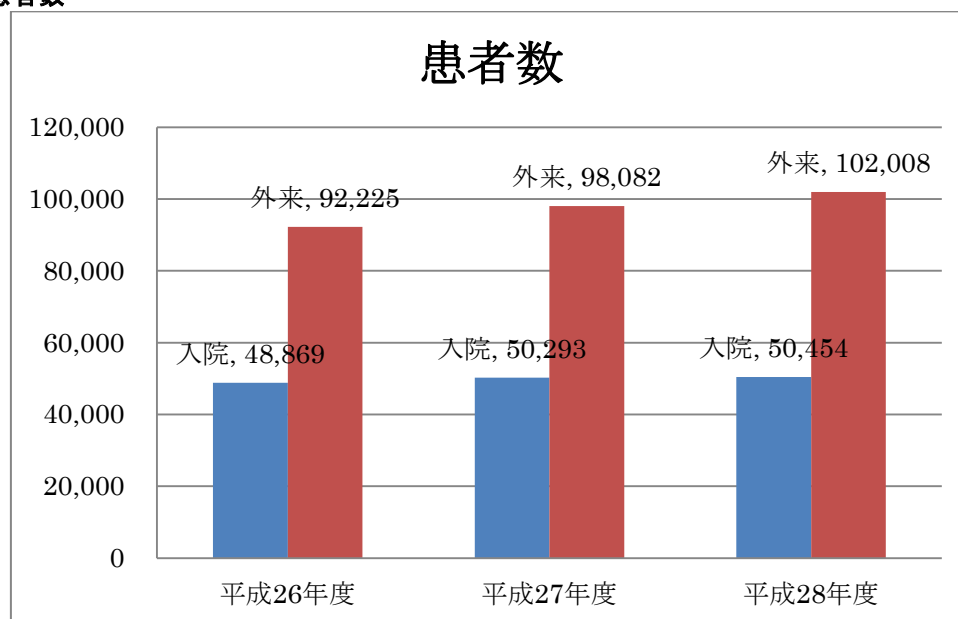


平均在院日数

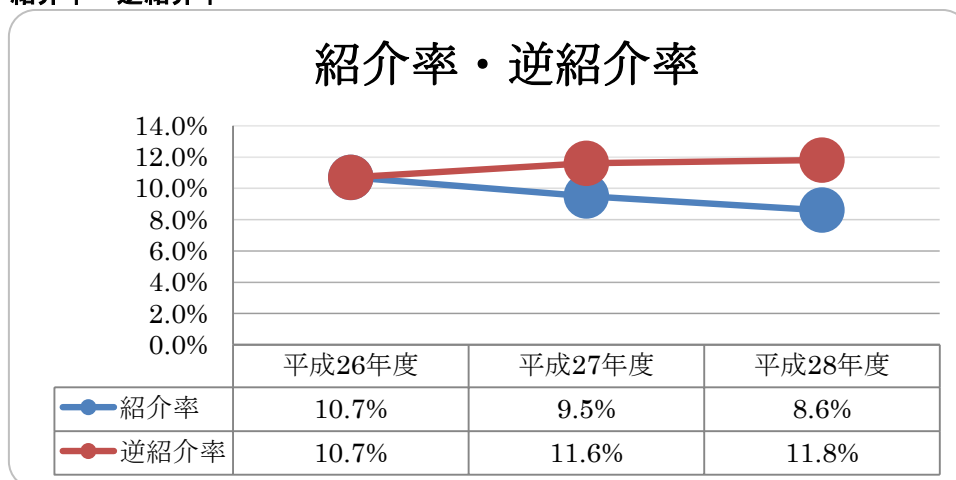
平均在院日数は27年度は19.2日、28年度は20.8日と患者数の増加とともに増える傾向にありました。



患者数

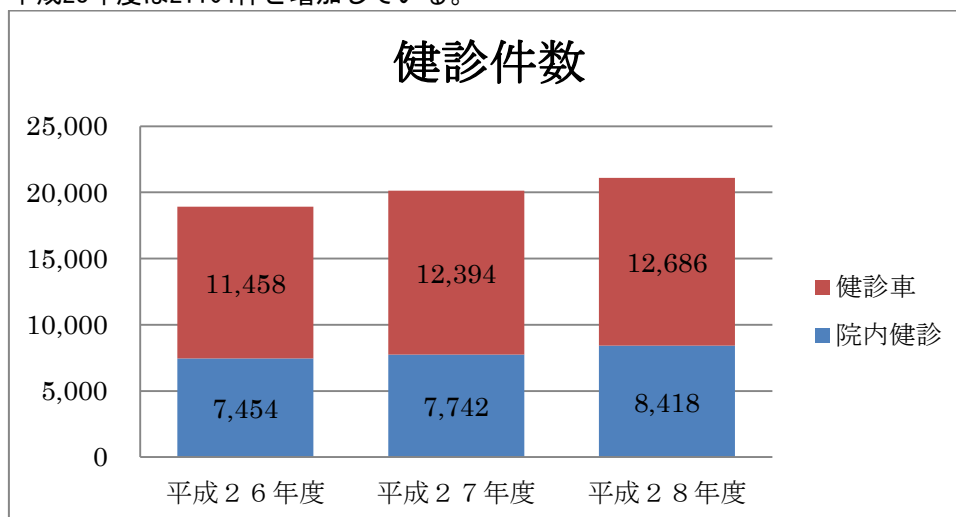


紹介率・逆紹介率

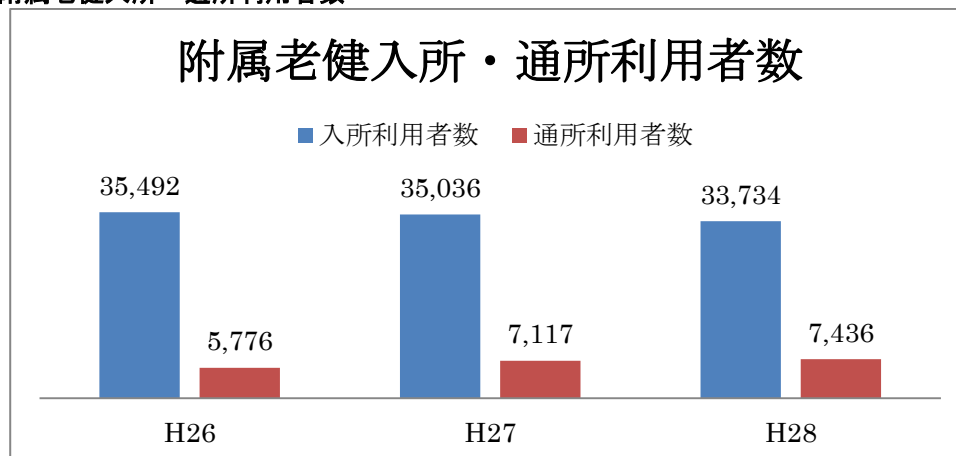


健診件数

健診件数は、健診車と院内合計で平成26年度は18912件、平成27年度20136件、平成28年度は21104件と増加している。



附属老健入所・通所利用者数



【理念】

安全で安心できる質の高い医療・介護を提供し、地域に貢献し信頼される病院を目指します。

【基本方針】

1. 地域と連携し地域医療・保健・福祉に貢献します。
2. 患者さんの権利を尊重し、説明と同意を基本とする医療・介護を提供します。
3. 安全で安心できる質の高い医療・介護の提供に努めます。
4. 地域の健康促進を目指した活動を推進します。

④ 自施設の課題

地域に急性期を主として提供する病院が3施設（能代厚生医療センター456床（うち急性期392床）、能代山本医師会病院200床（うち急性期165床））。人口減少に伴い医療需要の減少が見込まれることに加え、高齢化率も上がることから当院の役割についての検討が必要。

内科医不足による、入院及び外来患者の受入制限をせざるを得ない現状に加え、在籍する医師の高年齢化が進んでいることから、中長期的な医師確保に取り組む必要がある。

開業医からの紹介が少なく、恒常的に紹介率逆紹介率が伸び悩んでいることから、地域医療機関との連携強化が喫緊の課題である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・救急輪番は週1日（厚生4日、医師会2日）であるが、能代市の中心部に位置することもあり、救急車の搬送は厚生に次いで2番目に多い。加えて、外来患者数も多いことから急性期機能を有する医療機関としての役割は大きい。
- ・整形外科が大学医局とのつながりが強く（常勤3名＋手術時応援医師）、今後増えると予想される高齢者の骨折等に迅速に対処できる。
- ・病院附属施設として、健康管理センター、老健施設（100床）、居宅介護支援センター、訪問看護ステーション、地域包括支援センター（H30年4月～）を有することから、地域包括ケアの「要」の病院としての役割を果たす。特に、リハビリを目的としたデイケアの受入れは当附属老健施設のみとなっている。
- ・小児科は、夜間救急輪番を週1日行っている他、一日平均患者数 外来38.2名 入院0.9名であり、小児医療の地域での中心的役割を強化していく。
- ・現在、外来においてはスポーツ外来、女性スタッフによる女性外来、物忘れ外来健診センターでは、ジャパンマンモサンデー及び日曜がん検診の実施、附属老健では通所リハビリテーションの実施をしており、今後も強化していく。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 3 病棟で急性期 159 床、回復期 8 床（現行の地域包括ケア病床）を維持する。

③ その他見直すべき点

- ・ 今後の医療需要の推移をみて、病床規模や病床機能について検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	159		159
回復期	8		8
慢性期			
(合計)	167		167

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度		○2017年3月末までに地域包括支援センターの立ち上げ終了	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; transform: rotate(-90deg); transform-origin: left top;">2年間程度で集中的な検討を促進</div>
2018年度	○地域包括支援センター開設 ○地域医療構想調整会議の合意にむけ検討	○地域医療構想調整会議において病床のあり方を検討	
2019～2020年度			<div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <div style="background-color: orange; padding: 5px; transform: rotate(-90deg); transform-origin: left top;">第7期介護保険事業計画</div> <div style="background-color: lightgreen; padding: 5px; transform: rotate(-90deg); transform-origin: left top;">第7次医療計画</div> </div>
2021～2023年度			<div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <div style="background-color: orange; padding: 5px; transform: rotate(-90deg); transform-origin: left top;">第8期介護保険事業計画</div> </div>

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 90%
- ・ 手術室稼働率：
- ・ 紹介率： 30%
- ・ 逆紹介率 30%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率： 55%
 - ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：
- その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

（自由記載）